

米国 I S M製造業景気指数（12年6月）

発表日：2012年7月2日（月）

～35か月ぶりに米製造業の縮小を示す水準まで悪化～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

I S M製造業景気指数 は49.7と前月比3.8% ポイント低下

6月のI S M製造業景気指数は、49.7と前月比3.8%ポイント低下し、市場予想の52.0を下回った。拡大縮小の分岐点である50を35か月ぶりに下回り、製造業部門が縮小に転じたことを示している。入荷遅延が上昇した一方、新規受注が大幅に低下したほか、生産、雇用、在庫が悪化した。欧州債務問題による世界経済減速などの影響を受け、内外での受注が減少した。総合指数への構成項目別の寄与度をみると、新規受注（前月比▲2.5%ポイント）、生産（前月比▲0.9%ポイント）、在庫（前月比▲0.4%ポイント）、雇用（前月比▲0.1%ポイント）が押し下げ寄与となり、総合指数は前月比▲3.8%ポイント低下した（入荷遅延は前月比0.0%ポイント）。また、拡大した業種数は7業種（前月13業種）にとどまった。

6月の世界製造業PMIも48.9（前月50.6）と昨年11月以来の50割れとなっており、欧州債務問題などによって、グローバルに製造業部門の調整圧力が強まっている。欧州や日本など先進国の悪化に加えて、新興国も低下した。

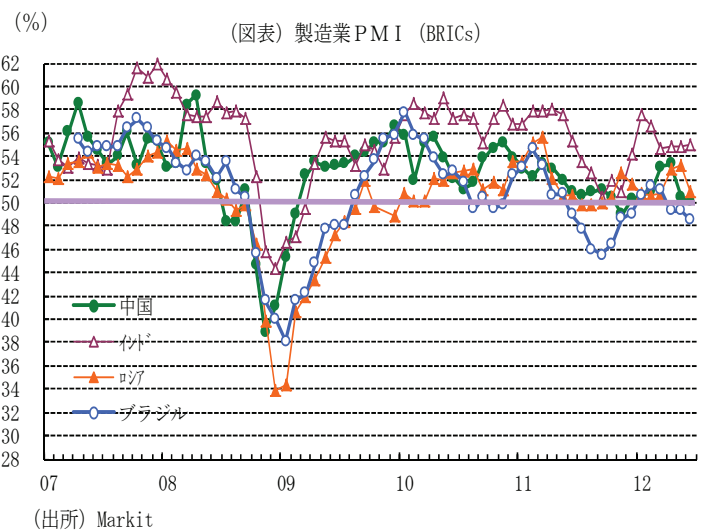
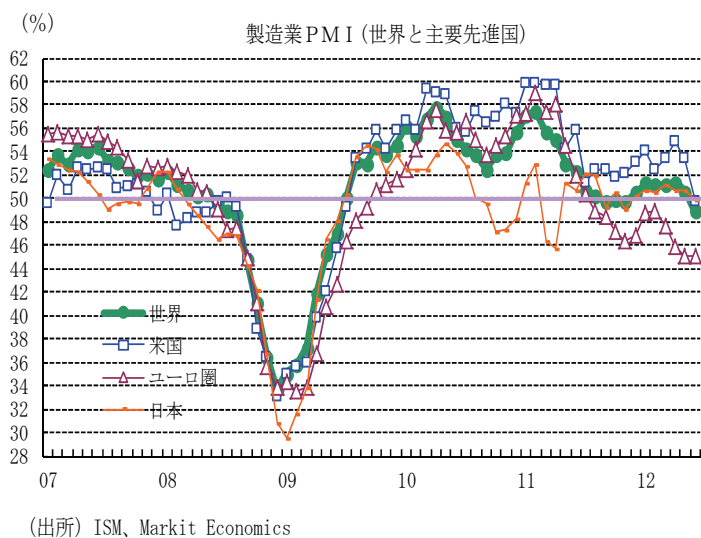
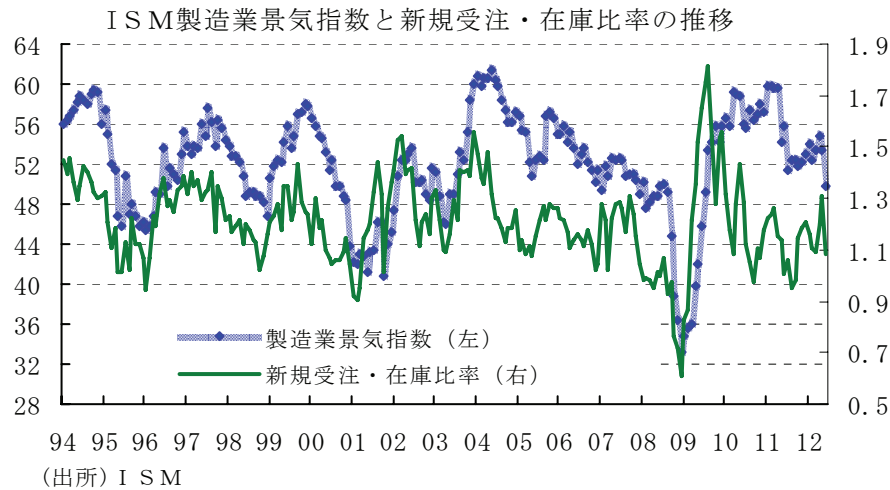
I S M（the Institute for Supply Management）の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
11/08	52.5	51.8	51.5	53.6	54.5	51.2	46.0	55.5	50.5	55.5
11/09	52.5	51.1	52.5	55.2	52.0	51.6	41.5	56.0	53.5	54.5
11/10	51.8	53.4	52.7	54.0	46.5	52.2	47.5	41.0	50.0	49.5
11/11	52.2	55.0	55.7	52.4	46.5	51.3	45.0	45.0	52.0	49.0
11/12	53.1	54.8	58.9	54.8	45.5	51.5	48.0	47.5	53.0	54.0
12/01	54.1	57.6	55.7	54.3	49.5	53.6	52.5	55.5	55.0	52.5
12/02	52.4	54.9	55.3	53.2	49.5	49.0	52.0	61.5	59.5	54.0
12/03	53.4	54.5	58.3	56.1	50.0	48.0	52.5	61.0	54.0	53.5
12/04	54.8	58.2	61.0	57.3	48.5	49.2	49.5	61.0	59.0	53.5
12/05	53.5	60.1	55.6	56.9	46.0	48.7	47.0	47.5	53.5	53.5
12/06	49.7	47.8	51.0	56.6	44.0	48.9	44.5	37.0	47.5	53.5

I S M製造業景気指数は 短期的な調整後、拡大を 示す水準に

今後に関しては、米国企業が過剰な在庫や雇用を抱えていないほかことや、緩やかながらも米国内需要の成長持続など下支え要因があるものの、欧州債務問題による世界経済減速の影響を受けると予想される。トレンドの変化に先行する新規受注・在庫比率が大幅に低下し、低い水準となっていることから、I S M製造業景気指数は今後数カ月調整すると予想される。しかし、その後金融緩和などによる世界景気の底打ちを受け、製造業部門の拡大を示す水準を回復すると見込まれる。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



輸出の拡大ペース鈍化を示唆

輸出受注DIは、6月に47.5と前月比6.0%ポイント低下した。欧州、中国、日本、韓国、台湾などの製造業部門の縮小による輸出の増加ペース鈍化が示された。輸出DIは世界経済の減速により拡大縮小の分岐点である50を下回ったことから、前年比での輸出の拡大ペース鈍化を示唆している。

各国の米国向け輸出の増加ペースは減速する可能性

輸入DIは、6月に53.5と50を6ヶ月連続で上回ったが、前月比変わらずとなっており輸入の増加ペースが抑えられていることを示唆している。さらに、新規受注DIが47.8と前月から12.3%ポイント低下したことから、先進国のほか、BRICSなど新興国の米国向け輸出の拡大ペースは鈍化する可能性がある。

雇用DIは56.6と製造業雇用の増加を示唆

雇用DIは、56.6と前月比0.3%ポイント低下したものの、50を上回っていることから、製造業部門の雇用者数の増加傾向を示している。もっとも、価格競争の激化によるコスト削減圧力の強まりを背景に、製造業部門での雇用の急速な回復は期待できない。

仕入価格D Iは37.0 仕入価格D Iは、37.0と前月比10.5%ポイント低下しており、川中でのインフレ圧力
と川中でのインフレ は今後大幅に弱まることが示されている。
圧力の急激な弱まり
を示唆

